

道徳/総合/保健体育 学習指導案 小学校

命を守る、交通安全学習 1 時間目

本時の指導

(1) ねらい

安全で安心な暮らしのために、危険な場所を理解し、そこでどのように行動すればよいかを学ぶ。あわせて、3 時間目に低学年へ教えるための動機を持つ。

【指導のポイント：作業を「使命」に変えるマインドセット】

本授業は、単に地域の危険箇所を確認する「作業」ではありません。子どもたちが自律的に安全を考え、行動を変えていくための「マインドセット」を育むことを目的としています。

指導にあたり、以下の 3 つのフェーズで子どもたちの心に火をともしてください。

1. 「自分事化」： データ等を見ながら、事故は身近なものであり、多くの小学生が無事に過ごしているのは決して当たり前ではない、という事実を伝えてください。
2. 「使命感」： 自分たちが得た気づきを「1・2 年生を守るために役立てる」という社会的役割へとつなぎます。使命感を育むとともに、地域の一員として「自分たちに低学年のために何ができるか」を考える流れになっています。
3. 「見通し」： 1 時間目の気づきが、2 時間目の準備、3 時間目のアウトプットへどうつながるのか、その全体像を最初に示し、思考の停滞を防ぎます。特に 1 時間目につくった地図については 2, 3 時間目でもしっかり確認をすることを前提とし、「自分の生活地域における危険を察知する力」を育てられるよう指導してください。

全 3 時間の構成で、1 時間目は、「なぜ今、この活動を行うのか」を理解し、交通事故を自分事として捉える導入を目指します。道路上の危険を具体的に考え、安全な行動をグループやクラスで共有することで、多面的に考える力を育みます。また、低学年の交通事故が多い現状を知り、高学年として「低学年を守りたい」という意識を高めます。

2 時間目では伝え方を考え、3 時間目では実際に低学年へ伝えることを見据えながら、1 時間目の学びの重要性を共有してください。

【先生向け事前準備事項：ヒヤリハットマップの作成】

本時では、あらかじめ先生に作成していただいたヒヤリハットマップ上に、児童が危険地点を入力していきます。以下の手順でマップを作成してください。

手順①：Google マップなどの地図サービスを利用し、画面上のスケールバーが「100m」程度になる縮尺で、小学校を中心に航空写真と通常表示（地図表示）の 2 種類のスクリーンショットを撮ってください。

また、学区や通学路のマップを手元に配布すると分かりやすいです。

手順②：航空写真と通常表示（地図表示）のスクリーンショットを、それぞれ PowerPoint 等に貼り付けた後、児童が認識しやすい施設や建物に吹き出しを付け、名称を入力してください。

作成例)



手順③：手順②で作成したマップを、カードの点線四角内に貼り付けてください。
作成例)



手順④：授業前に、あらかじめ「みんなのボード」へ送付し、児童がタブレットでも閲覧できる状態にしてください。

(2) 本時の展開

学習活動（主な発問と予想される児童の意識）

・指導の留意点と◆評価

導入
10分

■ 地図を見て、危険な場所について話し合う。

T：地図のイラストを見て、危ないなと思うところを見つけてみましょう。丸をつけて、みんなのボードに提出しましょう。

T：なぜそこが危ないと思いましたか。お隣と伝え合ってみましょう。

T：実はこの地図には、これだけの危険が隠されています。

T：地図からたくさんの危険が見つかりました。次に見せるのは、実際の事故に関するデータです。どんなことがわかりますか。

各カードのポイントに着目させる。

- 事故が多いのは7歳（何歳が多いかな？何年生かな？）
- 1・2年生は歩行中、5・6年生は自転車乗車中の事故が多い（どんなときに事故にあっている？年齢で違いはあるかな？）

- ・自分の暮らしと照らし合わせながら、自分事として考えられるようにする。

【オクプラ操作】

- ・1枚目の「ヒヤリ」とするところは、どこかな？」カードを配付する。
- ・児童は図形を使って印をつける。
- ・みんなのボードに提出する。

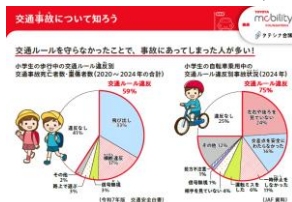
- ・グループ活動では、互いの視点の違い（見通しの悪さ、車のスピードなど）に気づけるよう促す。
- ・具体的な対策（一時停止する、左右を確認するなど）を言葉にさせる。

提出されたカードを見ながら、児童を指名し、危ない理由を問う。

※情報のカードについては、時間の都合上、一部をカットして進めることも可能。

- ・特に1枚目の時間帯や学年、事故原因について重点的に理解を深める。

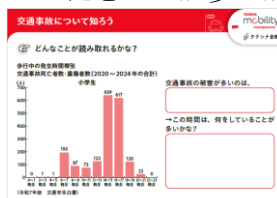
■ 事故の多くはルール違反（なぜ事故にあっているのかな？）



■ 一方で車側のルール違反もある（信号が青だから安心、というわけでもないね）



■ 事故が多いのは下校時刻・放課後の時間（時間帯だといつが多いかな？なぜかな？）



■ 事故の影響と、事故にあっていないことの偶然性について知る。

T：ではそんな事故が起きてしまうと、周りの人たちはどのような気持ちになると思いますか。

（事故にあった人）

・
（その家族や友達）

・
（事故を起こした人）

・

T：大きなけがや死亡してしまう事故に巻き込まれる小学生は、年間約 700 人もいます。これは、〇〇学校〇校分の人数です。



■ 本時のめあてを捉える。

T：では、事故による悲しい気持ちを増やさないために、5・6年生の自分たちは何をしたらいいのか。授業を通して考えていきましょう。

- ・ 身体的なけがだけでなく、家族や周囲の人の悲しみなど、心情面にも目を向けさせる。
- ・ 事故が起きたときの影響から、「これ以上事故を増やしたくない」という気持ちを高め、めあての設定につなげる。

※嫌な思い出がある児童にはケアをし、無理をさせない。

- ・ 自分たちが事故にあっていないのは「偶然」でしかなく、いつあってもおかしくないこと、周りで事故が起こっていないことは「奇跡」ともいえるほど、事故は身近であることを伝える。

※コンテンツをフルで使い、3 時間で授業を進行する場合「1・2 年生に教えるための 1 時間目になるように」意識をつくる。
特にこの後の活動内容を「低学年に説明する」ことがゴールとなることを伝える。

自分の地域で、自分や、まわりの人の命を守る行動を考えよう！

展開
30分

1. 自分の学区のヒヤリハット体験マップを作成し、
自分の通学路での安全行動を考える。

T：今日は、〇〇小の周りのヒヤリハットについて考えていきましょう。

まずは、自分の通学路やいつも使っている道を思い出してみよう。どんな場所で、どんな状況で「危ないな」と思うことがあったかな。自分の身に起こったことでも、見たことでもいいので具体的にどんな場所ですなにが起こったか、書いてみよう。

T：では今メモした内容をもとに、今から、〇〇小のヒヤリハット地図を作りましょう。地図のカードを送ります。

まずは自分で危険だと思う場所やヒヤリとしたことがある場所にピンを置いてみよう。そして、なぜ危険なのかを青いカードでコメント、どうしたら安全かを黄色いカードでコメントしよう。

2. 危険だと思う場所にピンを置き、コメントする。

- なぜ危険なのか、青いカードに記載する（約10分）

選んだ危険箇所について「どんな行動が危険か」「どんな条件で危険が高まるか（人間の心理や動きによる・道路の特徴による）」を具体化する。場所の理解から状況の理解へ深める。

例）右側は塀が高いため、車が来ていてもすぐにわからないから。急に車が曲がってくるかもしれない。

- 黄色のカードに、どうしたら安全かを記載する（約5分）

何に気がつけたらよいのか、具体的に話し合う。

例）止まれと書いてある線より手前からスピードを落

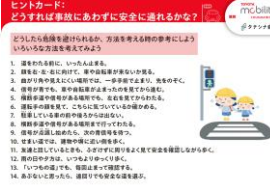
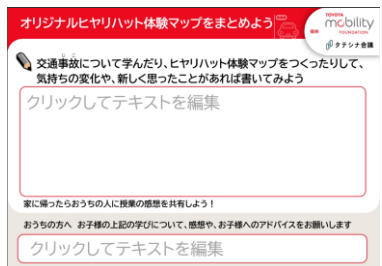
- ◆自律的に安全な行動を選択しようと努めている（発言・記述）
- ・画面を全体で共有し、一つの画面から対話を促す。
- ・危ないと思った理由や対策について深められるようにする。

【オクプラ操作】
メモのカード、学区地図を貼って
おいたカードを配付。

※Google マップなどの地図サービスを利用し、画面上のスケールバー「100m」程度の縮尺で、学校および学区周辺の地図をスクリーンショットしてカードに張りつけるのがおすすめ。登校班がある場合は登校班別にグループをつくるなど、できるだけ話し合いがしやすいグループでマップ作りを進める。

GoogleMAP のストリートビューが見られる場合は、オクリンクプラスのカード地図とともに、リンクを配付するなどして、地図だけではなく、実際の建物や道路の様子をしっかりと確認しながら授業を進められるようながす。

特にストリートビューなどを使う際は、目的から外れた活動にならないよう声掛けを行う。タブレットやデジタル地図の扱いに慣れていない場合、まずは学校を中心に表示してみよう、人の形を持っていくと…など

	として、顔を出しながら確認して進む。駐車場に入る車がないか意識して歩く。 T：なぜ危険か、どうしたら安全か、言葉にしにくいときは、ヒントカードを見ながら、どのパターンになるか考えてみましょう。   T：最後まで書けたら、みんなのボードに提出しよう。 時間があれば、各自でみんなのボードに提出されたヒヤリハット体験マップを見てみましょう。 ■ <u>作成した地図をもとに、安全な行動について隣の人と話し合う。</u> T：まずは自分が記入した危険だと思う場所について隣の人に紹介しよう。次に、ピンがたくさん刺されている場所について、なぜ危ないかの理由と、どうしたら安全かを話し合おう。 時間があれば、最後に数名を出して発表させる。	一連の流れを一斉指導する。端末で自由な作業を行わないよう、机間指導など適宜行う。 場所は、目印になるもの（お店や地形、風景など）などを具体的に示すよう口頭でフォローする。 なぜ危険か、どうしたらいいかについては、自由記述では意見が深まらない可能性もあるため、ヒントカードを提示し、スムーズに危険の原因と対策を言語化するサポートを行う。 【オクプラ操作】 記入済みのカードをみんなのボードに提出。 ピン集計を行い、地図の中で特にピン（報告）が多いところを児童に共有する。 【オクプラ操作】 他者のカードにコメントやリアクションをしてもよい。 「実際の道路や周辺環境の詳細」に踏み込んだ会話を引き出す。
終末 10分	■ <u>学習を振り返り、考えをまとめる。</u> ・交通安全について学んだことや、マップの読み込みを通して感じたことを整理する。 T：今日学んだことを通して、自分の考えを書きましょう。家に帰ったらおうちの人に授業の感想を共有しましょう。（保護者の記入欄については任意で回答するように伝える） 	・単なる「ルール遵守」の確認にとどまらず、自分の命と他人の命を大切にしたいという道徳的価値の自覚を促す。 【オクプラ操作】 記入できた児童から、まとめを提出。 ◆安全な生活に向けて、危険な場所を理解し、そこでどう行動したらよいか理解している。

（3）評価の視点（道徳科における児童の学習状況及び成長の様子についての評価）

通学路などの身近な場所における危険を自分事として捉え、自律的に安全な行動を選択しようとして努めているか。

他教科への展開例

- ・総合的な学習の時間：地域探究と関連づけて活用
- ・保健体育：健康や安全に関する学習と関連づけて活用

※各学校の教育課程や実態に応じてアレンジしてご活用ください。

※Google ストリートビューは Google LLC が提供するサービスです。

道徳/総合/保健体育 学習指導案 小学校

命を守る、交通安全学習 2 時間目

本時の指導

(1) ねらい

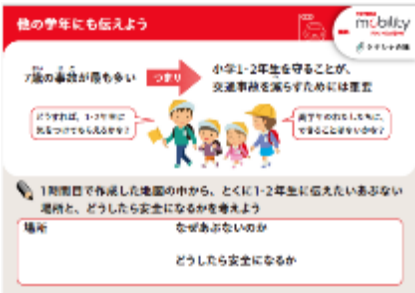
1 時間目の地図を見直し、低学年に安全に過ごすための方法を伝える準備をする。危険な場所の特徴を学び、取るべき安全行動を整理したうえで、1・2 年生にわかりやすく伝える方法を考える。

【指導のポイント：気づきを「守る力」に変える】

本時は、1 時間目の気づきを、低学年の命を守るための「伝える力」へと高めていく時間です。単なるクイズ作成で終わらせるのではなく、「どうすれば相手に伝わり、行動が変わるのか」を問い続けてください。学校の周りや通学路に詳しい高学年から伝えることで、1～2 年生の事故防止につながるという当事者意識を持たせ、低学年を守る側としての責任感と誇りを引き出すことが重要です。

(2) 本時の展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の意識）	・指導の留意点と◆評価
導入 5 分	1. 前時の振り返りと本時の課題確認 前時の授業で整理した、交通安全で大切なことを共有する。前時に作った地図を使って、自分たちの地域ではどうか思い起こす。 T：今日は、地域の事故をもっと減らしていくために前回つくった地図を使って「交通事故にあわないすごし方を低学年にも知ってもらう」ための授業をつくります。まずは低学年がなぜ危険にあいやすいのかをもっと詳しく知るために、動画を見てみましょう。3 つのうち興味があるものを 1 つ選んでみてみましょう。  T：動画では、なぜ 7 歳の事故が多いと言っていたかわかりましたか。  ■小学校に入り、子どもだけでの行動が多くなること（守られなくなること） ■身長が低く、運転者など周囲から見えにくいこと ■年齢が低いと、周囲への注意が十分に向かず、危険に気づきにくいこと ・動画や情報を確認しながら、「安全に過ごすのは自分たちだけでよいのか」について考え、低学年へ伝える意義を確認する。	・高学年としての自覚を促し、低学年とともに安全に過ごすことの必要性を実感できるようにする。 ・低学年に伝える使命感から、本時の課題意識につなげ、めあてを立てる。 必要に応じて、1 時間目に使ったデータのカードも使いながら発表を促す。

	T：これまでみんなが体験してきた危ない場所や安全な行動を、ぜひ交通事故に遭いやすい低学年に教えて、地域の小学生の交通事故を減らしていきましょう！今日は、前回つくった地図を使って「低学年にも知ってもらう」ための授業をつくります。	
展開 30分	2. 自分が伝えたい危険な場所を選び、内容を整理する。(20分) (居住エリアや地区エリアごとに分かれグループ活動) T：みんなが入力した危険な場所とその理由、どうしたら安全かについて見てみよう。 ここから、実際に低学年に伝えるべき情報（通学路や行動範囲における危険箇所と理由など）を絞り込む。 T：ピンが押されている場所と、どんな危険があるかをグループで確認しましょう。その中から、特に低学年に知ってほしいと思う危険な場所をグループで選び、カードに記入しましょう。（最大3つほどを目安に）  3. 整理した内容を、低学年に伝えるための授業制作を行う。(15分) T：3 時間目で使う、低学年が危ない場所について楽しく学べるクイズをつくりましょう。特に、事故にあってしまう理由が学べるクイズになるように工夫してみましょう。さっきまとめた「教えたい場所」を使いながら、3 問くらいを目安に作成します。 まずは、先ほど選んだ「低学年に知ってほしい危険な場所」についてのクイズをつくりましょう。危険な場所のストリートビューのキャプチャを撮ってカードに貼り、危ない場所を問題にしてみましょう。	【オクプラ操作】 1 回目の授業で作成したヒヤリハット体験マップ 完成版 を児童に送付。 具体的な場所や場面を想起させ、根拠のある情報収集ができるよう支援する。 【オクプラ操作】 記入が終わったら、みんなのボードに提出。他者のカードにコメントやリアクションをしてもよい。 例を参考に、具体的なクイズになるよう促す。 特に低学年はオープンクエスチョンでは答えにくい場合があるので、適宜選択肢を設けるなど、低学年が置いて行かれない配慮をしっかりと行うことを声かけする。 また通学路によってはクイズが作りにくい場合は、前時に学習したら知識事項をクイズにする。 ※カードは、メモ用のカードが 2 枚、清書用のカードが 2 枚あるの

そして、クイズの答えとして「どういう行動をとれば良いか、『気をつけること』」を書き込もう。

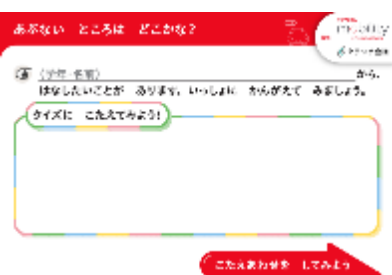
地図のクイズをつくり終わったグループは、1 時間目で学んだ事故の多い年齢や理由についてのクイズも作ってみましょう。



T：低学年には、難しい言い方では伝わりにくいことがあります。「なぜ危ないか」「どうしたら安全か」を伝えることを意識して、クイズを作成しましょう。



できた班から、こちらのカードに清書を行う。



4. 伝える役割を決め、練習と改善をする。

T：最後に、クイズを行う方法と、地図をどうやって一緒に見るかについて決めましょう。みんなのように地図を見ただけでは、その場所を思い出せないかもしれません。具体的に思い出してもらうためにどんな工夫ができるでしょうか。

で、使う順番に合わせて配付するなどして活動を促す。

※「ヒントカード」を使い、適切な言葉で表現できるようサポートする。

※学習した内容とかけ離れたものにならないよう、クラスを回りながら声かけを行う。

◆自分たちの生活や低学年の実態を踏まえ、安全な過ごし方について伝えるべき内容を適切に選択している。

◆タブレット端末等を活用し、客観

的に自分たちの表現を振り返られるようにする。

◆互いのよさを認め合いながら、より伝わりやすい表現をめざして協力的かつ主体的に取り組んでいる。

※ここではクイズを例としているが、クイズに限らず「低学年に伝える」という目的が達成されていればほかの手法で授業を進めてもよい。ただし、各自の通学路や行動範囲を振り返ること、自分はどうするかを考えさせる内容にするための声かけを行うこと。

地図では低学年に伝わらないなどの意見が出たら、学校周辺での写真撮影を許可するなど、具体的に「自分

	1・2年生に伝えるために準備しよう ① 作成したじやりハットマップを使って、最接近場所が近いかな。 1・2年生と一緒に確認する方法を考えよう ② 1・2年生は、まだ地図の読み取り方を覚えているかな どうすればいいかな? ③ 1・2年生と一緒に確認する方法を1つ選ぼう ○ 一緒に読む → じっくり読む、読み取りやすいように書き出し、共有できるようにしよう ○ 地図アプリを使う → お互いの地図では、地図アプリと読み取りやすいようにしよう ○ 写真と見くらべる → お互いの地図は、地図アプリと読み取りやすいようにしよう 担当を決めよう! ④ クイズを行う時の、役割を決めよう! クイズを出す タブレットでクイズを表示する タブレットで地図 (ストリートビューなどのイメージ)を見せる 名前 ● グループごとに誰がどの役割を担当するかを決める。 ● 練習を行い、お互いにアドバイスし合う。 ● 「言葉は難しくないか」「写真は見やすいか」などの視点で改善する。	「たちの地域」での理解が進むよう対応する。
終 末 10 分	5. まとめと次時への見通し ・次時の「伝える時間」に向けた準備を確認する。 ・活動全体を通して、自分自身の交通安全への意識がどう変化したか振り返る。 ※本時はクイズカードをもってまとめに代える。	・「伝える側」としての責任感を持たせ、次時への期待感を高める。 ・低学年に伝える当日に向け「表示させる担当」「話す担当」などを決めておき、班の中での役割を事前に整理しておく。 ・この活動が自分たちの安全な生活にもつながることに気づかせる。

(3) 評価の視点

- ・自分たちの生活や低学年の実態を踏まえ、安全な過ごし方について伝えるべき内容を適切に選択している。
- ・互いのよさを認め合いながら、より伝わりやすい表現をめざして協力的かつ主体的に取り組んでいる。

※Google ストリートビューは Google LLC が提供するサービスです。

低学年に交通安全を伝える方法例

3 時間目での異学年交流授業で行うアクティビティーは本時で行っているクイズ以外にも考えられます。以下の内容を参考に、クラスの雰囲気などに合わせて挑戦してください。

共通のポイント

- 必ず「①どこが危ないか→②どう危ないか→③どうしたら安全か」の順で伝える
- 難しい言葉を使わず、短い文章で話す
- 低学年が「自分ならどうする？」と考えられる内容にする
- 地域の実際の場所や写真を使う

伝え方	内容例	準備物	注意点
紙芝居	「○○さんが通学中に…」と物語形式で危険場面を紹介する	画用紙、イラスト、写真、台本	登場人物を低学年に近い設定にし、1 場面 1 メッセージに絞る
ポスター	危険な場所の写真やイラストと、安全な行動をまとめて掲示する	模造紙、写真、色ペン、付箋	文字を少なく大きくする。「止まる」「見る」など行動を目立たせる
地図で実演	学校周辺の地図を使い、「ここではどう歩く？」を実際に指し示しながら説明する	学区地図、ヒヤリハットマップ、指示棒	地図だけでは伝わりにくいため、写真やストリートビューも組み合わせる
ロールプレイ（寸劇）	危険な歩き方と安全な歩き方を演じて比較する	帽子、ランドセル、横断歩道カードなど	危険な行動を面白く演じすぎない。必ず安全な行動で終わる
安全すごろく・カードゲーム	通学路を進みながら、「こんなときどうする？」を考える	すごろく台紙、コマ、サイコロ、カード	ゲームが目的にならないよう、止まったマスごとに理由と行動を確認する

先生の声かけ例

- 「低学年が明日からできることは何かな？」
- 「どうして危ないのか、1 年生にもわかる言葉で言えるかな？」
- 「『気をつけて』だけではなく、『どうすればいいか』まで伝えよう」
- 「キミたちが、よいお手本・悪いお手本両方を使い分けて伝えられるようになろう」
- 「地域全体の交通安全 0 にむけて、5 年生ができることは大きいよ」

道徳/総合/保健体育 学習指導案 小学校

命を守る、交通安全学習 3 時間目

本時の指導

(1) ねらい

高学年と低学年でグループを組み、タブレット等を見ながら身近な危険地点を確認し、高学年から低学年へ、取るべき安全行動を伝える

【指導のポイント：学びを「守り合う力」に変えるマインドセット】

本時は、高学年がこれまでの学びを低学年に伝え、ともに安全について考えることで、「自分たちが守る側である」という意識を確かなものにすると同時に、低学年に「今日の帰り道から気をつけよう」と、新たな知識や安全意識を育む時間です。

単なる発表やクイズの実施で終わらせるのではなく、「低学年の行動が変わること」をゴールに据えてください。

指導にあたっては、以下の 3 つの観点から子どもたちの意識を高めます。

1. 「相手意識」：伝わる形への変換

低学年の発達段階や語彙に合わせて、「どう言えば伝わるか」を考えさせてください。

2. 「本質理解」：クイズを目的化しない

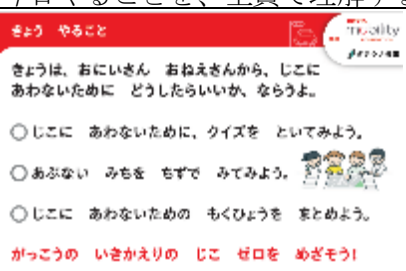
クイズは手段であり、「なぜ危ないのか」「どう行動すべきか」を地図と結びつけて伝えることが重要です。

3. 「共創意識」：一緒に守る仲間になる

教える立場に立つだけでなく、低学年と同じ目線で「一緒に考え、一緒に守る」姿勢を育てます。

高学年のかかわり方一つで、低学年の理解と行動は大きく変わります。「伝える授業」から「守り合う関係をつくる授業」へと昇華させてください。

(2) 本時の展開

	学習活動（主な発問と予想される児童の意識）	・指導の留意点と◆評価
導入 5 分	1. 登下校や放課後に潜む危険を振り返る。 高学年側から自己紹介を行い、どのような通学路を通っているかを紹介し合う。 <u>（居住エリアや地区エリアごとに分かれグループ活動）</u> <u>今日やることを、全員で理解する。</u>  高学年はヒヤリハット体験マップ（オリジナルマップ）をタブレットのストリートビューで表示し、自分の通学路から 1 か所を取り上げて、「なぜ危険なのか」を紹介しながらアイスブレイクを行う。 例えば、「あのコンビニの角だね」「横断歩道はあるけれど、信号がない道のところだね」など、地図に不慣れな低学年でも、これから何を扱うのかイメージできるようにする。	・高学年として、自分たちの行動が低学年の手本になっているという自覚をうながす。 ・学校のみんで安全に過ごしたいという気持ちや願いから、本時のめあてを立てる。 ・タブレットでの表示は、班の中で表示させる担当を決めておくなど役割分担を事前に整理しておく。

	<u>本時のめあてを捉える</u> 安全に過ごす方法について具体的に考え教え合おう！	
展開 30分	<u>2. グループによる安全学習（異学年交流）。</u> - 高学年が準備した「身の回りの交通安全クイズ」を低学年に出題する。 T：では、いまから各班に分かれて、クイズに挑戦しよう。高学年は、2 時間目までに学んだ「なぜ危険か」「どうしたらいいか」をしっかりと伝えてあげよう。 前時に作成したカードを使い、2 年生に向けてクイズを行う。  T：もしもわからない場合は、高学年は答えを教えて終わりにするのではなく、ヒントを出しながら「どうすれば安全かな」を一緒に考えてみよう。低学年からの質問があれば答え、アドバイスを行いましょう。 T：クイズが終わったら、「今のクイズの場所はどこかな？」を確認するために、みんなでストリートビューの地図を見てみよう。 - 低学年は地図をまだ習っていないため、ストリートビューを使いながら、学校周辺や通学路など、低学年にも分かる道を一緒に確認する。 - 高学年の一方的な理解にならないよう、低学年を置いていかないよう配慮するよう声かけ。 - 紙で出力した地図を使う場合は、建物を思い出しながら道をたどるなど、低学年が自分の通学路や行動範囲を具体的に想像できるようにする。そうすることで、取るべき安全行動の理解につなげる。 <u>3. クイズを通して気づいたことをまとめ、自分の行動を振り返る。</u> T：通学路など、自分たちの行動範囲の危険がわかったら、今日の学びをまとめるカードを作しましょう。まずは左上に、高学年に教えてもらった危険な場所のストリートビューの写真を貼りましょう。次に、右上にその場所で何に気をつければよいかを書きましょ	一方的に教えるのではなく、低学年の目線に立って、わかりやすい言葉や具体的な場面（交差点、放課後の遊び場など）を例示できるようにする。 ◆他者との交流を通して、自分たちの生活に潜む危険を多角的に捉え、安全な生活につながる具体的な工夫を見いだそうとしている。

う。最後に、交通安全のためにいつもできていること、これからがんばりたいことすべてに○をつけてみましょう。



- ・クイズを通して、通学路や遊びに行く中で特に自分が気をつけるべき場所と内容をまとめる。
- ・低学年に伝えた内容が、自分自身で実践できているか再考する。
- ・「一般的に危ない」という理解で終わらず、自分たちの行動範囲ではどうなのかを上級生が具体的に示し、低学年が「自分はどうか」と考える機会をつくる。

【オクプラ操作】

まとめカードを記載し、みんなのボードに提出。

提出BOXがクラスごとの表示となる場合はあえて一覧にせず、手元のタブレットを見せながら、前で数名に発表してもらおう。高学年と低学年をセットで指名し、両者の共通点や違いに着目させるのもよい。

※このカードと、振り返り用のカードは、低学年用・高学年用ともにあるので教師が時間と子どもたちの状況を見たうえで選んで使うのも可。

末
10
分

4. 本時の振り返りを行う。

学習をふまえて、学んだことや、これから特に意識したいことを書く。

- ・低学年がタブレットに慣れておらず、書き方に迷う場合はノートなど別のものに書く、もしくは高学年のみが記入でもよい。
- ・代表者が自分の決意を全体の前で発表する。



5. 「宣言カード」を記入し、共有する。



自分たちの通学路に即した具体的な行動宣言となるよう声かけを行う。

T: 「まとめよう」のカードに記入したことを書き写しましょう。
そのがんばりたいことは、どこで実践できそうかな？
「〇〇コンビニの角」や「××スーパーの駐車場」と

- ・「気をつける」といった抽象的な目標ではなく、「放課後、自転車に乗るときは一時停止で足を地面につける」など、なるべく具体策を書かせる。

【オクプラ操作】

振り返りカードをみんなのボードに提出。

※宣言カードは付録とし、必須ではない。印刷してカード化し、ランドセルに入れておくなどの活用も考えられる。また、右下に振り返り部分を設けてあるため、学期ごとに本時の学びを振り返り、定期的に通学路で「気をつけること」を振り返らせるのもよい。

◆決めたことを継続して実践しようとする意欲をもち、自らの生活習慣を見直そうとしている。

	いった具体的な場所があれば、左下のメモ欄に書きましょう。	
--	------------------------------	--

(3) 評価の視点

- ・他者との交流を通して、自分たちの生活に潜む危険を多角的に捉え、安全な生活につながる具体的な工夫を見いだそうとしている。
- ・決めたことを継続して実践しようとする意欲をもち、自らの生活習慣を見直そうとしている。

※Google ストリートビューは Google LLC が提供するサービスです。